

群馬県立館林高等学校

同窓会会報

特集 館林高校五十km強歩大会

今年で第二十七回を迎えることになった館高の春の恒例行事、五十km強歩大会。長年の歴史の中で培われた新しい伝統は、今や館高健児の底力を表すシンボルの行事として、地域社会にもすっかり浸透した感がある。

そこで本年は、同窓会報編集委員も三班の健走形式で全行程に同行し、彼らの健歩ぶりを密着取材した。



同窓会のため書きをけけ参加したO日たち



4月22日(土)朝6時30分、滑みきった青空の下、渡良瀬川の東北高速道橋下に集合した館高健児達にスタートの号令が通り響いた。学校までの52キロ、三河一市五町を走り抜ける挑戦の火蓋が切られたのである。渡良瀬川から利根川の堤防上を利根大塚まで歩き、その後は一般道で学校まで行くコースである。

先頭を歩く生徒は短距離走を思わせるほどのスピードで駆け抜けていった。幸いにも抜けるような青空で、富士山をはじめ群馬県木の山々が手に取るように見えた。しかし走っている生徒達にはこの素晴らしい景色が目に入らなかつたであろう。そして11時08分には一位の生徒が校門をくぐりゴールした。4時間38分間走り通したそうである。その後続々とゴールし5時間を切った生徒は10人であった。一方、午後6時07分には最後の生徒が重い足を引きずってゴールし、関係者の拍手が迎えた。何と11時間37分歩き通したことに拍手であった。参加生徒60人、完歩率93%であったという。

ちなみに、会報編集委員チームはタスキを繋いで37位でゴールした。全行程を三区間に分割して2人づつでタスキを繋いだ結果である。

後日、生徒たちにアンケートをとり、結果を学年別に集計してみた。

とつらいので、無心で歩いた/周りの景色について

この度の大会で何か得られるものがありませんでした。

達成感/疲れ/根性です/あきらめないことと真実に耐える根性/前に進む気持ち/キョウリに味噌とマヨネーズをつけて食べる美味いことを知った(注/関門のP.T.Aの招待?)/最後までやりぬく気力/忍耐/気合と根性とあきらめないこと/精神力/粘り強い精神/現代に生まれたことの有り難さ/己の身一つで生きることの辛さ/50km以上歩くことが出来ることを知った/努力することの大切さ/体力

あきらめないこと/根性/人生いろいろなことがある/やりきる気持ちよさ/精神力/頑張ること/達成感/権限状態の中でも何かをやりとげること/ねばり強さ/有意義に時間を使っていること/すばらしさ/生きることの辛さ/春の美しさ/友達と歩く楽しさ

目標に向かう努力/あきらめない心/我慢強さ/我慢と我慢/歩き続けた達成感/冷えたトマトのおいしさ/筋肉痛/やれば出来るんだなと思った/忍耐/精神力/辛い時も耐えたのでかなり精神力はついたと思う/自信/体力/運動不足の解消/友達/雑々たる根性の自分がかかかなかなと思った/自分の体力の限界/友達との時間/気合/友達と一語たと話せる楽しさ

●O日参加体験記●  
開春の雲一つない快晴の中、伝統の50km強歩にO日として参加しました。まず中継所である遊水池中央(渡良瀬川堤防上)に立ったとたん、視界に入ってきた300mの大バノラマに驚きの声を上げてしまいました。特に、その鮮やかさは筆舌に尽くしがたく、富士・八ヶ岳・浅間・榛名・赤城・日光白根・男体・筑波の雄姿に、しばしば目を奪われる思いでした。その残像を目の裏に、いよいよ準備を受け取り、一踏大高鳥を目指して、足どりも軽くなりスタートしました。途中、生徒には追い抜かれながらもマイペースを守り、同僚者との会話も弾み、楽しく16kmを完歩する事が出来ました。まめを漬けて、ひと休み中の孫ほどの生徒に持参のお茶をサービス、「頑張れよ」と声をかけたら「先輩もがんばって下さい」と逆に励まされ、残り5kmのピッチが上がりました。若者のひたむきさを直に感じながら、来年も一緒に歩きたい、チャレンジしたいとの感を強くした一日でした。学校関係者、父兄の皆様には大変お世話になりました。(山田)

O日の皆さん、参加しましょう  
母校の強歩大会に  
今回は会報編集委員は取材のために参加しましたが、全員が快い疲労感の中にも、自分の体力の再発見や若い生徒達との励ましあいなどに感動を覚え、折り返しも世は健康ブームの中、O日参加を呼びかけようということになりました。タスキを繋いで支部参加、学年参加、グループ参加もよいでしょうし、個人で52km走破もよいでしょう。奮い立って参加しましょう。要項は紙面の都合で10面に載せました。

以上のように、アンケートからは、この強歩大会で新しい自分を発見したこと、生徒一人ひとりにとって大きな成長の糧になっていることが感じられる。

### 母校と共に 同窓会を大切に

同窓会報第八号が編集にご苦勞いただく皆様を始め、同窓生皆様のご協力により発行されますことに対し心から感謝を申し上げます。

同窓会も皆様のご理解あるご協力、ご支援をいただき年々充実発展してまいりました。同窓生の交流交換の場とし、又情報交換や人間関係をより深めながら、このきびしい社会を生きていく仲間として、これからも皆様と一緒に、同窓会を大切にいたし、同窓会の発展充実のために努力いたし度いと存じます。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

### あいさつ

### 館林高校の暑い夏

### あいさつ

平成十八年の夏は暑かった。野球部が一回戦を突破、しかも昨年甲子園出場の高崎商業高校、絶体絶命の九回裏二アウトからの三連打、見事二回戦を突破し、順調に四回戦に駒を進めた。晴雨で試合が一日順延し上手の手から水が漏れた。堅さがエラーにつながり勝敗を分け野球部の夏は終わった。

し上げます。

昨今の社会での出来事を見て感ずることは、家庭と書うことを今一度親として、大人として考える時だと思えます。



同窓会長 岩瀬弥市

家庭とは、夫婦・親子などが一緒に生活する小さな集りであり、その家の中にはゆるしいやし、温かさや安らぎがあり、わがままが許され、どんなことでも話が出来る仲のよい同士が住んでいるところが、家庭であると思えます。

このような家庭をつくることを考

を手にしオランダのアムステルダム大会にこの夏参加する。



校長 伊藤 収

水泳部は千葉県で行われる関東大会に、登山部も秋の関東大会に出場する。吹奏楽部は昨年金賞に輝き、今年はその上を狙い連日練習をしている。新聞部も全国高等学校総合文化祭京都大

えながら、これからの時代に親として、大人として子ども達に伝えたいことは何か、私は私なりに思うことは、人間らしく自分の人生で本当にやりたいことを、一生懸命になつて見つけ精一杯生きることだと私は思っています。

このことを在校生の皆様にも是非考えて欲しいと思います。

館林高校も校長先生始め、先生方と生徒の皆様が一体となって努力、精進により立派な高校になりました。同窓会も会員皆様と共に同窓会を大切に同窓会発展のために母校と共に将来に向かって、力強い歩みをしてまいりたいと思えます。今後とも皆様の格別なるご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げ同窓会報第八号発行にあたり挨拶とさせていただきます。

会に参加する。

この春の大学進学は国公立が五十九名、卒業生全員が進学希望であった。国立大学は東北、筑波、東工、群馬、埼玉。私立では慶応、青山学院、上野明治など受かり健闘している。

館高生は着実に成果を上げています。苦しさや負荷のない高校生活はありえない。厳しさが良いわけではないが、より高い目標に到達するにはそれ相応の負荷がかかる。それを恐れては何も手に入らない。着実な歩みをさせたいと思っています。

### OBが学校へ

### OBによる

### 職業進路講演会

本校の新しい恒例行事として定着しつつあるOBによる進路講演会が5月20日(土)の3・4時間に開催された。

昨年度より生徒主体の行事として生まれ変わり、講師とのディスカッションや運営の裏方として、汗だくになりながら走り回る子供たちの姿が清々しいものとなった。

講師は次に挙げる本校OBの4名の方に昨年同様快諾していただいた。多忙な中、生徒の質問を予想して回答を準備してくださる方もいて、卒業生の有難さを実感した。

○出席いただいたOB

- 河村 博(50年卒ホテル人事担当)
- 杉田光章(54年卒臨床検査技師)
- 正田 茂(55年卒自動車デザイン)
- 太田任伸(55年卒上野明治特待生)



### 平成十八年 同窓会本部役員

幹事	伊藤 収 (母校校長)	副会長	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	幹事	津野 義男 (二十八卒)
副幹事	伊藤 収 (母校校長)	副顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	副幹事	津野 義男 (二十八卒)
書記	野村 博久 (四十三卒)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	書記	野村 博久 (四十三卒)
会計	町田 収司 (母校教諭)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	会計	町田 収司 (母校教諭)
監事	尾形 哲男 (二十年卒)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	監事	尾形 哲男 (二十年卒)
支部長	鈴木 敏男 (二十三卒)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	支部長	鈴木 敏男 (二十三卒)
東部同窓会	鈴木 敏男 (二十三卒)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	東部同窓会	鈴木 敏男 (二十三卒)
中部同窓会	鈴木 敏男 (二十三卒)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	中部同窓会	鈴木 敏男 (二十三卒)
西部同窓会	鈴木 敏男 (二十三卒)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	西部同窓会	鈴木 敏男 (二十三卒)
南部同窓会	鈴木 敏男 (二十三卒)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	南部同窓会	鈴木 敏男 (二十三卒)
館東会	鈴木 敏男 (二十三卒)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	館東会	鈴木 敏男 (二十三卒)
太田	鈴木 敏男 (二十三卒)	顧問	岩瀬 弥市 (二十五卒)	顧問	小嶋 泰男 (二十六卒)	太田	鈴木 敏男 (二十三卒)

### 学年同窓会

人生にはいろいろな節目がある。中でも賀寿すなわち  
 女寿の祝いは、還暦、古希、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、  
 白寿と続く。

そんな節目に合わせて同窓会をやっていく学年がある  
 と聞き、今回は喜寿、古希、還暦記念の同窓会を記事に  
 していただいた。節目節目をだいたいにしたものである。

#### 還暦記念同窓会 39年高卒同窓会

「私たちが館林高校を卒業  
 して四十二年目の春がめぐつ  
 てまいりました。人生におい  
 ても還暦という節目を迎えま  
 した。六十歳という区切りの  
 年でもありますので趣向をこ  
 らして温泉につかり旧交を温  
 めたいと思います。恩師の斎  
 藤先生にもご出席いただき予  
 定です。時・十八年五月、行  
 先・五浦海岸」

この案内状に早々手を上げ  
 てくれたのは愛知県のY・I  
 君、はるばる米国より参加す  
 るというT・I君、なかには  
 四十二年ぶりの再会となるF・  
 M君などなど総勢二十六名に  
 よる旅行になった。斎藤先生  
 が都合で参加できなかったの  
 が残念だった。

バスの中では、学生時代の  
 思い出や近況報告など話題沸  
 騰、なにしろ誰にも気をつか  
 うことがない同窓生たちだか  
 ら・・・野口雨情記念館では  
 童謡を聞き子供にかえり、塩  
 屋崎灯台では、美空ひばりの

「みだれ髪」で女心を唄い・・・  
 そして旅の初めも髪も別れも、皆  
 で「高校三年生」の大合唱。ほん  
 とにみんな涙が出るほどに嬉しく  
 懐かしく楽しい旅を味  
 わった。

ところで、こんな  
 も楽しい還暦記念同級  
 生旅行だったが、その  
 始まりはというと、昨  
 年の同窓会総会・親睦  
 会の席上にあった。同  
 席の同級生たちの話題  
 はもっぱら還暦を記念  
 して同窓会をやるうと  
 いうことだった。いま  
 でも平成六年、平成十  
 一年に同窓会を開催し  
 てきたのだが、今回は  
 還暦という節目なので  
 温泉にゆつたりつかっ  
 てゆつくりできる一泊  
 旅行にしようとなった。

早速地元にいる者が中  
 心に幹事になり、幹事  
 会を四回行い、役割を  
 分担しあって実施にこ  
 ぎつけた。

今思うに、学友たち  
 はそれぞれ、職場で、



業界で、そして地域で責任ある仕  
 事をしてきたのである。また現在  
 も継続している者もおり感服の至  
 りである。私たちはまだ六十歳で  
 ある。人生はこれから、今までの  
 経験が宝物として、健康に留意し  
 益々頑張りたいと思つた。

おわりに、今回の還暦旅行にご  
 参加いただき、青春時代の懐かし  
 い思い出を甦らせてくれた学友に  
 ありがとうと感謝申し上げます。  
 (39年卒 北角文明記)

#### 喜寿記念同窓会 21・22年高卒同窓会

私達の学年は四年のときに学徒  
 動員先で終戦の玉音放送を聞き無  
 念の気持で母校に帰り次年の三月  
 の卒業組と五年生(館高創立二十  
 五周年)で卒業した組で同期会を  
 行っています。初回は卒業後何年  
 たって始めたかは忘れましたが館  
 林市で大勢参加し盛大に行われま  
 した。それ以来毎年、中村邦史、

針谷光雄氏等が幹事で館林市の料  
 亭増巻で主として行ってきました。  
 松涛会と命名し、レギュラー組と  
 ときたま組、めずらしい組が参加  
 し和気藹々の楽しい会合です。久  
 しぶりに故郷の土を踏む者、校歌  
 斉唱等を楽しむ者等がわざわざ遠  
 方から参加しています。以前は時々  
 恩師をお招きしてましたが、しば  
 らくお招きしなかつたらおごくな  
 りになった先生方が多く数年前久  
 しぶりにお招きしたら飯島徳治、

勅使河原薫之助、榊原敏夫先生だ  
 けになってしまい、飯島、勅使河  
 原の両先生が出席して下さいまし  
 た。昔話で楽しかったです。飯島  
 先生は翌年おごくなりになり勅使  
 河原先生は高齢で出席がむずか  
 しいそうです。もっと先生方が若  
 いうちにお招きすべきだったと反  
 省しています。最近では新里達、粕  
 川洪二、小倉康一の三氏が中心幹  
 事で、館林市のパークインで一泊  
 二日で行っています。私達  
 も今年喜寿を迎えました。そし  
 て五月二十七日に同期会を行いま

したが日程の変更があり例年のよ  
 り十名位参加者が少なく残念でし  
 た。幹事さんは大変ですがこれか  
 らもこの会合が続く様願っていま  
 す。  
 (22年卒 関白龍記)

#### 古希記念同窓会 30年高卒同窓会

私達は商業科第二回卒業(昭和  
 三十年卒の30会)です。前回は八  
 年九月館林で行いました。今回は  
 館高卒業五十周年記念及古希祝  
 兼ねて十七年十月十七・十八日一  
 泊で市内つじが岡パークインで  
 開きました。出席者二十一名(四  
 十九名中)です。古希ともなると  
 皆さん白髪となり体重の増加でか  
 んろくがつかまりました。ほとんどの  
 人が趣味や旅行と悠々自適の生活  
 です。中には現役で務めのため翌  
 日午前五時頃帰った人もおりました。  
 皆さんが楽しみにしておりま  
 した宴会が午後六時に始まりまし  
 た。河内会長挨拶、乾杯と続き、  
 自己紹介並びに近況報告では館高  
 時代のエピソード、自習時間に騒  
 いでいて〇〇先生にスポンを全員  
 ぬがされパンツになった事、久保  
 田先生と希望者数人で風の翌日増  
 水した多々良沼の西岸から弁天様  
 まで遊泳した事など思い出を語り  
 あいしました。最後に次回の再会を  
 平成二十年四月桜の咲く頃、五十  
 年前希望を持って入学した想い出  
 の地で聞く事に決定、慣例の記念  
 写真を撮り、元気に再会を胸に股  
 会しました。(30年卒 石川 進記)

私達は商業科第二回卒業(昭和  
 三十年卒の30会)です。前回は八  
 年九月館林で行いました。今回は  
 館高卒業五十周年記念及古希祝  
 兼ねて十七年十月十七・十八日一  
 泊で市内つじが岡パークインで  
 開きました。出席者二十一名(四  
 十九名中)です。古希ともなると  
 皆さん白髪となり体重の増加でか  
 んろくがつかまりました。ほとんどの  
 人が趣味や旅行と悠々自適の生活  
 です。中には現役で務めのため翌  
 日午前五時頃帰った人もおりました。  
 皆さんが楽しみにしておりま  
 した宴会が午後六時に始まりまし  
 た。河内会長挨拶、乾杯と続き、  
 自己紹介並びに近況報告では館高  
 時代のエピソード、自習時間に騒  
 いでいて〇〇先生にスポンを全員  
 ぬがされパンツになった事、久保  
 田先生と希望者数人で風の翌日増  
 水した多々良沼の西岸から弁天様  
 まで遊泳した事など思い出を語り  
 あいしました。最後に次回の再会を  
 平成二十年四月桜の咲く頃、五十  
 年前希望を持って入学した想い出  
 の地で聞く事に決定、慣例の記念  
 写真を撮り、元気に再会を胸に股  
 会しました。(30年卒 石川 進記)

## 支部活動

## 二十五周年を迎える

## 東京同窓会

会長 鈴木敏男



この間、全くさしたるトラブルも無く、役員の皆様もとりよ会員諸氏力を合わせ只前向きに取り組んで参りました。会としての体制も漸く整い、親板会、納涼船の会等ゴルフの会も併せ交流・親睦の場を数多く持つ様になりました。館女の東京同窓会立ち上げの応援もしており、板倉高校同窓会の一部も参加があり、館林中心の全体交流も時に触れて行われております。

県下の高校同窓会は申すに及ばず、群馬県人連合会、上毛クラブ等既存の郷土の会との交流親睦も漸く一部なされて来りました。

この後は館高東京同窓会としての内容も益々充実し、その存在価値が認め合える様な会として、会員特に若手や中堅の方々の会員増強と各会への参加を期待している次第です。

尚、東京同窓会の25周年記念パーティーは次の要領で行われますので、本校同窓会及び各支部の皆様も参加頂ければと思います。

日時：平成18年10月21日（土）  
3時30分 受付開始  
4時30分 講演（菅津義男氏）  
5時30分 式典・懇会  
6時00分 記念パーティー  
（アトラクション：館林八木節他）  
場所：上野八公園内上野精養軒

## 同窓会の使命

明和支部長 小平 進  
平成十八年七月一日に明和支部

同窓会総会が、多数の同窓生の参加のもとに盛大に行われました。平成十七年度事業報告及び会計報告がなされ、引き続き支部役員改選が行われました。

初代支部長吉永五三氏の後を受けて、二代目支部長に小平進が推薦され、承認をいただきました。引き続き懇親会に移り、来賓の岩瀬同窓会長をはじめ、伊藤校長並びに近隣支部長のご出席をいただきました。

伊藤校長より母校の近況報告があり、様々な面で母校も時代と共に変遷し、今日に至っていることがなされました。

移り変わる時代のなかで、環境の変化と共に幾つもの峠を越え、また一つの重要な峠にさしかかっていると感じました。

新しい風が少しずつ入り、それにより母校の良き伝統も生き続けて行くのではないかと思います。

同窓会は母校の発展と同窓生の幸せになることが、大きな使命であると思えます。

本部と支部の縦糸、各支部の横糸をしっかり組み、活性化を図って、少しでも理想的な同窓会を実現するために、出来る限りの努力をしたいと思えます。

## 千代田支部の活動状況

支部長 武井章良  
千代田支部では年に一度、秋に総会を行っています。それに合わせてゴルフ及びグラ

ウンドゴルフを行い、会員相互の親睦を図っています。

昨年（平成十七年度）の例を挙げると、総会は新田家（赤岩）で行い、参加人数は約三十名でした。ゴルフは板倉ゴルフ場で行い、十三名の参加者と和気藹々のうちに終了しました。

また、グラウンドゴルフは東部運動公園にて行い、参加人数は十名でした。お互いに同窓生との絆が十分に深まったと思えます。

一般に参加者の高齢化が懸念されていますので、若い人たちのご参加を期待しています。

## 邑楽町支部活動について

邑楽町支部会長 関谷智昭

平成十六年二月二十九日邑楽町支部設立役員会を、おうらヤングプラザで開き青山敏雄氏が発起人代表となり支部結成の趣意、方策、段取りについて説明し協議の結果永年の願いがかなって発足のはこびとなり設立総会を五月二十九日行い四二九名の会員で大きな第一歩を邑楽町福祉センターを会場にして盛大に踏み出しました。青山敏雄氏のもとに二年間が順調に経過したので、役員が若がりやすさを目的で会長が私関谷智昭が五月二十七日邑楽町仲家で行われた本年度の邑楽町支部総会で交代することになりました。きめこまかいリーダーシップを発揮された青山前会長のようにはいきませんが会員の友情を一層深めるように努力

し任務を全うしたいと思います。一層のご指導下さる様お願い致します。

## 町制施行50周年を機に更なる躍進を

大泉支部 館泉会会長 河内初光

現在、大泉支部（館泉会）への入会者総数は、115名です。今年も、新年同窓会・会報発行・ゴルフ会・合同役員会兼納涼会、各支部同窓会への参加など、皆で元気に活動が続けております。

昭和32（1957）年3月31日小泉町と大川村が合併して「大泉町」が誕生し、来年で50周年です。当時の懐かしい写真がありましたので載せます（地元館高在校生の集會）。これを機に、皆で力を合わせ更に元気に活動し、館高健児の歴史を築きたいと思えます。

今後とも、先輩諸兄を始め、関係者各位のご指導を賜りたくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆々様のご健康を祈ります。



場 登 師 恩

病氣になった馬

森 猛 先生



あさ、授業がはじまってまもない頃である。ひとりの生徒が連れて教室にはいつてきた。つかつかと教室のまえに立ち、(つちの馬が病氣になったんで、遅刻しました」と申し訳なさそうに不安な表情をうつむける。

馬の病氣が遅刻の理由になるなんて、ひどく奇異な気分であった。だが、それはボクのなかで、だいに熱い感動に変わっていった。農家のあわただしいあさの情

思い出したい

森 貴信先生



館高には二度(二度目は教頭として)お世話になりましたが、私には最初の赴任の方が、はるかに愛着を感じ強く印象に残っています。生徒達に直接、接しられた十年間だったからです。

純粋で純真さの残る生徒達の待つ教室に向くのは、羨しみました。英語を得意とする生徒も、そうでない生徒も、少しでも力が伸びるように、教材研究に工夫を加え、頑張らせたものです。

景があたまを駆けめぐる。まだ電話も車もない頃、生徒は黙々と呼びに走らされたにちがいない。馬は農家にとって貴重な財産だった。

この時のことは、あれから半世紀をへたいまも強い印象としてここに刻まれている。生徒たちの背中にはおろかかな田圃風情がどっかと腰を下ろしている人間のながい限りにふさわしい場所がそこに隠れているかのようだ。それにしてもあの時の生徒は、いま、どこでどうしているのだろうか。

赤城山麓の小さな町に住みつき、人生を終わろうとしていたいまのボクにとって、出発点が館林高校であったことはねがってもしない幸運だったと思っている。森先生は昭和25年より33年まで、英語教師として館高に勤務していた。

昭和三十年代のことを柱にして

橋 孝司 先生



私の大行原での生活は、学生時代の6年間と教員時代の約十一年間、併せて十七年間に及ぶ。第七代も半ばとなる今、しみじみと私の人生を振り返ってみれば、当然のことながら母校での生活が、私の生涯の中で主軸をなすものになっている。

特に、昭和三十一年に母校の数学教師として採用され、昭和三十三年に太田高校に転任するまでの約八年間は、個性で魅力溢れる多くの先輩諸先生

我が人生、館高に感謝！

新井 昭一先生



館林高校の十六年間は実に素晴らしい年月でした。学生時代から本格的な英語を「聴き、話し、読み、書く」ことを英語学習の大きな目標とし、大泉高校赴任以来「新しい英語教育とその指導法」研修の為に毎年夏休みにELTEC研修所での二週間の特別合宿を連続十六年も、更に最終の夏には二ヶ月のイギリスでの研修さえも許可してくれました。また度々本校の外国レスリングチームとの対抗戦の遠征も最高の勉強になり

方を鑑とし、私のその後の教師としての基作りや力量養成のための貴重な体験をさせて頂いた時代であった。生徒には、若さをぶつけての児童分的な立場で接し、その指導に当たったが、当時の生徒は純朴で、未熟な私の指導に裏面に従ってくれた。お陰で、毎日が生きがいと張りのある教師生活を送ることができたことを感謝したい。糧食を共にした谷川温泉での勉強合宿、春夏の卓球部の校内合宿や、折りに触れて訪れてくれた卒業生との話らい等、思い出は限りない。近年教え子達も定年を迎える歳となり、ゆとりができたためか、拙宅にて酒盛りをしながら往時の思い出話に花を咲かせるグループも現れるようになった。うれしいことである。

橋先生は、昭和31年より33年まで数学教師として、昭和33年より35年まで校長としてご勤務いただき、昭和36年卒です。

ました。生徒諸君が模擬試験で他の進学校に並ぶ成績を挙げたことや、スピーチコンテストでの連続上位入賞は生徒諸君の努力の賜物です。吹奏楽部や応援団の顧問として野球の応援で声を震らしたことが、ワングル部の生徒と飯費連綿を歩いたことも良き思い出です。NHK英語講座で凄く英語力をつけた地理の塚田万里先生はじめ教え子が何人もいます。是非皆さんにお勧めします。今も家で小・中・高校生に生きた英語を教えており、八月にはイギリス、我が心の旗を存分に楽しみ、話し元気に帰国したところです。

新井先生は、昭和42年から48年まで、英語教師としてご勤務いただきました。

●今年のゴルフ●

「同窓会ゴルフコンペ」開催される



第7回館林高校同窓会ゴルフコンペは、心配された雨も上がり、5月11日(木)に板倉ゴルフ場で82名の参加者を得て開催されました。同級生、先輩、みな和やかに親睦を深めながらも、真剣にラウンドしました。

その後のパーティには、岩瀬同窓会長、伊藤校長も参加して、健闘をたたえながら、楽しい時間を過ごしました。

- 成績は、次の通りです。
- 優勝 相沢繁光 (館林)
  - 準優勝 中村貞夫 (邑楽)
  - 第三位 新井卯平 (館林)
  - 第四位 小林啓八 (邑楽)
  - 第五位 小林錦司 (大泉)
  - ベスグロ 76 中村貞夫 (邑楽)

●来年のゴルフコンペにご参加を●  
期日 平成十九年五月十七日(木)  
\*五月の第3週になりました。  
会場 板倉ゴルフ場  
どうぞお誘い合わせのうえ、地区役員、支部長までお申し込み下さい。

# O B 登 場

## 待っていては駄目だ

二十五年卒 中村 茂八郎



館林高校を卒業して五十六年。弁護士になつて四十七年。卒業当時私が考へていたことを一つだけ書く。

敗戦の混乱も残り、私は農業後継を断つて進学することになったが、自分の将来像が描けず悩み、取敢えず月謝の安い中央大学法学部に入った。目標が明確な私は大学は何処でも良かった。

しかし、その後起こるであろう諸状況に適切に対応出来るだけの力は身に磨けようと覚悟して法律学の理念を学ぶことに専念した。将来が見定めら

れないからと焦って、只身然と日々を送つた訳ではない。将来佳しとするものを磨いた。或は誤つたと悟つた時の退路を方向転換を可能にする判断力・洞察力の基礎を求めて努力したのである。

つまり、目標が定まらないとしても突然と待つて居ては絶対駄目だ。生涯安泰などと言う職業はない。勿論、自分が選択した目標は大切にその完成を期すのは当然だが、目標を達しなから止むなく方向転換を迫られることも有り得る時代である。その時に悔やまないように準備する時は諸君にとって今以外には無い。そして、今は二度と来ない。

と云ふで、館林高校同窓会には設立二十五周年記念誌を通つている。先輩の経緯が次山載つている。是非読んで欲しい。そして上京することがあつたら先輩を訪ね東京の駅舎に出発して下さい。

## 誇りある人生を!

二十九年卒 増山 芳弘



私の人生の出発点は館高バスケット部にあります。猛練習と愛校心に燃えた情熱で、念願の優勝を果たし、群馬県代表の栄冠を手に入れたことです。草創期の館高バスケット部の礎を築いたことは、現在でも誇りに思っています。

社会人となつてからも、この時の頑張り精神と自負が土台となつて、何事にも全力で当たることになりました。

## 館高に感謝!!

二十六年卒 大橋 信定



私は、館高の現在の地で、県立館林中学・高校と旧制から新制へかけて六年間学んだ関係で、母校には殊の外愛着を感じております。

高校一年の時に、創部された空手部に入り、そこで身につけた精神的な力と肉体的な力が、私の今までの生き方に大きな自信と解決力を与えてくれました。

横浜国立大学経済学部を卒業し、都立の商業高校の商業科の教員になりました。当時の会計学界の第一人者であ

る奥澤清先生のゼミにいたことが幸いし、校長先生に大奮目をかけていただき、二十代から簿記関係の教科書を執筆し、簿記の著書も何冊か出版しました。

早い時期に、教員、さらに校長になり、校長時代には、全国商業高等学校校長協会の理事長を務めさせてもらいました。高校退職後は、村田簿記学校の姉妹校の東京経営短期大学に教授として採用され、図書館長・学科長・副学長を経て学長になり、本年三月に退職しました。教員生活五十年に終止符をうったわけですが、私の教員生活の裏地をつくってくれたのが、六年間通つた館林中学・館林高校です。館高に感謝。

母校の益々の発展をお祈りいたします。大橋信定 全国商業高等学校校長協会理事、文部省「高校教育立憲推進委員会」高等専門学校教育推進部「高校教育立憲推進委員会」高等専門学校教育推進部「高校教育立憲推進委員会」高等専門学校教育推進部

## 学ぶ事と生きる事

二十八年卒 大塚 文男



平成十年四月から現在まで、館林市教育委員会教育長の仕事をしています。もう九年目になります。

その間、各分野で改革・改善が進められています。

学力についての考え方も、国際化、情報化等の進展により、知識・技能は重要であるが、単に知識の量のみではなく学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力まで含めて学力ととらえています。そのために基礎・基本を徹底し、自ら学び考える力を育てることが重視され

## 私と野球

三十一年卒 浦野 貞昭



小さい頃から野球少年だった私は、館高に入学するや迷わず野球部に入部した。館高時代一番の思い出は、夏の大会前の合宿である。5時起床、分福球場で先輩に徹底的にしこかれた。そのつらさを共に乗り越えた事により、俺達はやる事はやったという達成感が自信となり、チームに一体感がみえたり、その勢いであの名門高崎商業相手に延長に入る大戦役を演じた事を、昨日のよつに思い出す。

又、私が審判に力を入れることにな

ったのは、母校の応援(県大会)での審判の正確さ、公正さが大いに望まれると感じたからでした。審判のレベルアップは、地域の選手の技術アップに繋がる大きな要素であると確信し、研修会・講習会を通じて、館林の審判員の技術レベル向上に取組んだ。現在、その技量は県内でも高く評価されている。今年の早稲一輪大会小笠原に於いては人は多かったと思いますが、このような感動を与えてくれる野球がつくづくすばらしいなと思う。このすばらしい野球を通して、多くの方々と出会い、よいお付き合いをさせていただいている事に感謝するとともに、今後も郷土館林の発展に微力を献げたいと思っております。

浦野氏は昭和三十一年卒、館林市内で浦野計一、メカニクスを研究するからたら、館林市野球連盟会長、群馬県連盟副会長として活躍されている館林市野球連盟の重鎮である。

ています。そして、どのような変化にも自らの力で「生きぬく力」を磨き、教育が進められています。

私は昭和二十四年四月、定時制課程(夜間)第二回目の入学生でした。入学以来四年間、昼間は農業協同組合の経理係として、そろばん片手に伝票起票等の業務、夜は高校生として片道九歳の砂利道を自転車通学しました。農協の決算期には財産目録、貸借対照表、損益計算書等の書類作成に追われていました。

勤労学生としての四年間、勤労と高校生活を通じて、私の生きる力が磨かれたと実感しています。

大塚氏は、館林市内小中学校の教員、館林市教育委員会教育課長、館林市教育委員会教育課長として活躍中。

# O B 豊 場

## 世界の水問題に顕微鏡で貢献 三十四年卒 栗原 優



「21世紀は、水の世紀」ともいわれ、20世紀が石油資源の争奪で戦争が起こったように、21世紀は水資源の争奪で戦争が起こるだろうとさえ言われている。

石油は出るが、水が出ない産油国（サウジアラビア、アラブ首長国クウェートなど）にとって水資源の確保は最重要課題となっている。水不足問題は砂漠の国に限らず、アメリカのカリフォルニア州、イタリヤ、中国の沿岸地域、北アフリカの国々などにも広がっている。

をして新校歌が出来たのも、在学中であった。日本も戦後が終わり高度経済成長の時代へ入ろうとしている時、卒業し家業の木材、建設業を手伝う事になった。当時は東京オリンピックを旨として建設ラッシュで、どんな職業も忙しく活気があった。卒業してから34年後PTAの役員としてなつかしい稲並木の校門をくぐり、親子共々お世話になりました。昔と違い100パーセント近い進学校になっていました。世の中が速い速い変わって行く様子をいろいろ見てきました。ながい人生の中で高校時代が一番良い時ではないかと書かれてきました。まさにそのとおりかと思ふ年齢になってきました。母校の発展を祈念いたしましてペンを書きます。

この水問題解決に寄与するであろうと期待されているのが、顕微鏡であり、私は東洋においてこの分野の研究開発に当たってきた。現在では、どのような水でも飲料水レベルの水質の水をつくる事ができるようになってきている。私は海外出張が多く、どこに行かれるかとよく問われるが、水問題にかかわっていると国を問わずと答えたほうが正しいと思うほど広範囲にわたっている。水不足を国家レベルの課題としている国も多い現在、私はビジネスとしての国際貢献のみならず、学会や協会などの活動を通して、技術の普及や人材育成に今後も貢献していきたいと思っています。



## いづるの時代に 三十八年卒 渡辺 敏正

今世紀はいづるの時代とも言われている。災害や事件・事故に遭って生じるPTSD（心的外傷後ストレス障害）は社会問題となり、青少年を中心とした摂食障害やパニック障害等も取り上げられている。また、自殺者やうつ病の増加も目立っている。さらに深刻なのは、児童虐待であり、十年前の十二倍を超えている。不登校やいじめ、薬物乱用など、学校内外

## 少子高齢化に思う 三十五年卒 鎌田 正尚

団塊の世代の人達が定年を向かえる、そういう年が間近になってきました。この人達は日本中で、一年間に二百五十万人くらい生まれた人達です。今は一年間に、百二十万人が生まれ、毎年毎年少なくなっています。

それでも都市部の保育園は満杯で、待機児、なんて言葉もあるくらいです。私は平成十七年の三月まで、保育園長をやっていました。国の少子化に対する政策として、保育園の充実、ということが言われています。ハード面では園舎の増設、ソフト面では保育時間の延長や低年齢児の保育、そういうことが盛んに行われてきました。

の非社会的問題や反社会的問題を揆えている青少年も多い。対人関係の形成能力が低下している若者も目立っています。小生は館林高等学校在学中から人のこころに興味を持ち、大学・大学院で臨床心理学を学んだ。その後は精神病院や児童相談所での仕事を通過して、家庭学校、地域社会にかかわりながら、群馬県臨床心理士会の初代会長として十年間勤めてきた。



## 館林高校を想う 四十五年卒 小林 信夫

私は多々良中学校から館林高校に進学しました。いまも当時の正門前の桜並木や松林、万葉植物園などが強く印象に残っています。クラブ活動はバレーボール部に入部しましたが、当時は校庭の隅々この地べたで練習していたので擦り傷が絶えず、三三三をしたときには先輩から校庭の周りのランニングを命じられ、広い敷地（種か原下で一番広い？）を隈めしく回りました。大学を含めて35年以上東京（転勤で

## 館林高校の思い出 三十七年卒 鎌田 貴一郎



昭和34年、今から47年ち前である。この年は日本中が興奮し、特に館林が全国にその名を知られた年であった。それは原水子機と正田美樹子機との成績が4月10日に行われたからである。

この4月満開の桜並木の校門を通り、一年間の高校生活を送ることになった。当時は1学年もクラスで商業科も2クラスあった。レスリングとサッカーは毎年のように国体に出場し入賞していた良き時代であった。校歌が時代に合わない所があるというので、詩人佐藤春夫先生がきて講演

# 館高Now

## 吹奏楽部 西関東大会へ



「おおー!!」高崎の空に吹奏楽部の歓声が轟いた。7月30日、第48回群馬県吹奏楽コンクールにおいて創部以来初の西関東大会に出場を決めた瞬間だった。演奏した曲は、ブッチーニ作曲の歌劇「ジャンニ・スキッキ」からハイライト。部員43人のこの曲への想いが、1音1音丁寧に積み上げてきた音楽にのって群馬音楽センターに響き渡る。ある審査員は「一人ひとりが聴き合った合奏としなやかなサウンド」と評した。

多くの高校が、中学校からの経験者を中心としたバンドで出場するのに対し、本校の部員の9割以上が初心者からスタート。楽譜の読み方から、音の出し方、そして音階練習へと基礎を固める作業に1年以上かかる。

「目指してきたものを得る喜び」と3年生が語った。西関東大会は9月10日に新

潟県民会館で行われる。目指す物はより高い。あの喜びを、しなやかなサウンドに更に磨きをかけるエネルギーへと変え、再び新潟の空に歓声を轟かせて欲しい。

## 全クラス対抗球技大会



一学期の期末考査が終わった。その後、館林高校の校内外に、いつにない熱気と歓声が満ちていた。二日間に渡る球技大会である。

サッカー・バドミントン・ソフトボール・バスケットボールの四種目をクラス対抗で競い合うのである。

全員が何らかの競技に参加し、また積極的に自分のクラスを応援し、大変盛り上がっていた。

教諭も特別参加でそれぞれの競技に加わったのだが、互いに手加減は全くなかった。結果は言わぬが花ということでご容赦いただきたい。

よく学び、よく遊べという言葉があるが、生徒はその言葉を体現していると言つてよいのではないだろうか。期末考査の集中度合いを振り返って、一層そう思う。メリハリが効いているということだ。夏季休業期間は大いに気を張って、著しい成長をしてほしい。

## ●定時制だより

四月七日の入学式で、今年は十八名の入学を許可しました。五月二十九日には、同窓生で東京・メキシコ両オリンピック金メダリストの小幡洋次郎先生を講師にお願ひして、開校記念講演会を実施しました。先生は「スポーツを通して学ぶこと」と題し、ご自身の考えや努力のあとを熱心に話して下さいました。見せていただいた金メダルや、先生の熱意あるお話しに、皆引き込まれて聞き入っていました。

七月十日には館林自動車教習所をお借りして恒例の交通安全教室を実施しました。

部活動では、県予選の結果により、陸上競技部の五月女真希、バドミントン部の飯島清一君、卓球部の三村清隆君の三人が夏休み中に全国大会に出場しました。

本校定時制には全国でも少なくなつたETAが残り、またPTA総会も開催でき、小さな所帯ながらも頑張っています。



# 進路状況

今年度の進路決定状況は表1のとおりです。4年生大学は206名(89%)、短期大学に1名(0.4%)、専門学校に7名(3%)の生徒が進学し、進路決定率は93%と2年連続で9割を超えました。

主な合格大学は、表2に挙げましたが、地元群馬大学に27名、高崎経済大学に7名合格したのを始め、東北大学、筑波大学、東京工業大学、慶応大学、上智大学など、いわゆる難関大学にも合格しています。

これらの結果は、生徒一人一人の頑張りはもちろん、学校、PTA、同窓会の諸先輩方が一致協力して生徒の夢の実現のために努力した賜物であると感謝しております。同窓会の皆様には今後とも館林高校の発展のためにご協力をお願いします。

(表2) 主な合格四年制大学

私立大学		国公立大学	
獨協大学	33	東北大学	1
青山学院大学	1	茨城大学	2
慶応大学	1	筑波大学	1
芝浦工業大学	11	宇都宮大学	1
上智大学	3	群馬大学	27
中央大学	8	埼玉大学	4
東京理科大学	10	千葉大学	2
東洋大学	32	東京工業大学	1
日本大学	29	金沢大学	1
法政大学	5	信州大学	2
明治大学	12	高崎経済大学	7
神奈川大学	6	首都大学東京	1
など	471名	など	59名

(表1) 最近5ヶ年の進路状況(実人数)

進路	年度				
	14年度入試	15年度入試	16年度入試	17年度入試	18年度入試
国公立大(a)	52	41	74	50	56
私立大(b)	172	176	135	155	150
短大(c)	2	2	0	1	1
大学院・留学(d)	1	0	0	2	0
各種・専門(e)	14	19	26	14	7
就職(f)	0	1	1	0	0
自営(g)	0	0	0	0	0
浪人(h)	35	38	34	13	18
合計(i)	276	277	270	235	230
進路決定率	87.3%	86.3%	87.4%	94.5%	93.0%
大学進学達成率	86.6%	85.2%	86.0%	94.1%	92.8%

※海外の大学の国内分校は専門学校に分類、就職かつ進学した者は進学に分類  
 進路決定率=(a+b+c+d+e+f+g)÷i  
 大学進学達成率=(a+b+c+d)÷(i-e-f-g)



### 部活動状況

**今年度の県総体では、前年度の総合十位から大きく順位を落とし、十八位という結果であった。戦力的には例年とあまり変わっていないように感じるが、組合せの善し悪しで、その順位が左右されるような戦力であることは否めない。ベスト8・ベスト4を常に維持するには、権威をいかに勝ち取るかがかかっているように感じる。その部分では、限られた練習時間をいかに効率よく、技術・体力の向上に努めるかである。顧問はもちろん選手一人ひとりが何を考え、どのように取り組むかが鍵となる。生徒は日々の学習と部活動の両立で、悪戦苦闘の毎日を送っているが、その実現がこれからの人生にとって大きな財産になることを信じ、より一層精進してもらいたいと思う。なお関東大会以上の大会に出場が決まった部は、次の各部である。**

**【ボート部】** 今年、5名の新入生を迎え8名で毎日練習に励んでいます。部員不足に悩みながらも、5月に行われた関東大会ではダブルスカルが優勝し、団体予選においても関東一位で国体の出場権を得ることができました。また、二年生の栗原誠和が、8月にオランダで開催される世界ジュニアボート選手権大会に日本代表として出場することになりました。今年も近年になく選手個々が予想以上の活躍をしてきています。これから、インターハイ、団体と大会も続きますが、部員一丸となって良い成績を残せるように頑張りたいと思います。

**【山岳部】** 今年の高校総体は6位とやや振るいませんでしたが、関東大会の出場権は得ることができました。これで関東大会出場回数10回となり、関東大会常連校として、関東では知名度が上がったと思います。部員は3年生が引退し、2年生4名となりました。少数ではありますがありますが、意気盛んでこれから夏山合宿や秋の関東大会、新人大会に向けてトレーニングを重ねていきます。先輩達が築いてきた伝統をこれからも継承して生きたと思います。

**【陸上競技部】** 去る5月18日、21日に行われた陸上県総体では、3年生の小倉敏裕が200mで4位、3年生の堀越雄平が走高跳びで6位入賞を果たし、関東大会出場(6/18、19)を決めた。残念ながら関東大会では予選通過ならず、インターハイ出場は叶わなかった。

**【陸上競技部】** 走り高跳び 4位 関東大会出場  
400メートル 4位 関東大会出場

**【井筒部】** 平成十七年九月三日(土)に館林三の丸芸術ホールで、本校主催の第54回全国高等学校決勝井筒大会を開催いたしました。全国より十六名の井士が集い、成功のうちを終了できました。本年は九月十六日(土)に同じ会場で、三十名という近年にない数の井士の参加を得て、第55回大会を行います。平成二十年八月には、第32回全国高等学校総合文化祭群馬大会井筒部門、第54回文部科学大臣旗全国高等学校井筒大会が開催されます。決勝大会と併せて指導者支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

**【卓球部】** 団体2回戦  
ダブルス ベスト32  
シングルス ベスト64 (3名)  
【バスケットボール部】  
ベスト16

**【新報部】** 創刊は昭和24年ですが、長らく休刊していた時期があり、平成7年に復刊しました。復刊号を一号とし、7月発行の新聞で二七五号を迎えました。現在の部員は2年生2名で、苦勞することも多いですが、「月一回以上の発行」とい

**【バドミントン部】** 団体2回戦  
【テニス部】  
団体2回戦  
【空手道部】  
団体1回戦

**【水泳部】** こんにちには、水泳部です。今年度は新入生5名を受け入れ合計14名で活動しています。今期は6月末に関東高校選手権県予選会が行われ、総合3位に入賞し5名の関東大会出場を決めました。関東大会は7月末に千葉県国際水泳場で行われ、リレーでは400mフリー、

**【ソフトテニス部】** 3回戦  
【バレーボール部】  
3回戦

### 館高Now

**【レスリング部】** 今年度は一年生五名、二年生七名、三年生四名の総勢十六名と群馬県内一の部員数を確保し、新人大大会・県総体・インターハイ予選と団体三冠を2年連続で達成することができました。県総体は2年連続二十五回目、インターハイ

予選では3年連続三十六回目の団体優勝を手に入れることができました。しかし、県外の大会においてはなかなか思うような結果を残せずにいます。館林高校レスリング部の宿命でもある「日本一」を目標に、様々な先輩方が積み上げてくれた輝かしい伝統を汚すことなく、レスリングの楽しさや厳しさ、苦しさを味わいながら、精一杯頑張っていきたいと思います。

**【バドミントン部】** 今年度は新入生5名を受け入れ合計14名で活動しています。今期は6月末に関東高校選手権県予選会が行われ、総合3位に入賞し5名の関東大会出場を決めました。関東大会は7月末に千葉県国際水泳場で行われ、リレーでは400mフリー、

**【卓球部】** 今年度は新入生5名を受け入れ合計14名で活動しています。今期は6月末に関東高校選手権県予選会が行われ、総合3位に入賞し5名の関東大会出場を決めました。関東大会は7月末に千葉県国際水泳場で行われ、リレーでは400mフリー、

**【バドミントン部】** 団体2回戦  
【テニス部】  
団体2回戦  
【空手道部】  
団体1回戦  
【水泳部】  
総合3位 関東大会5名出場  
【硬式野球部】  
夏季大会 3回戦 (ベスト16)

\* 高校総体男子総合18位

**高校総体などの結果報告**  
【レスリング部】  
団体戦 優勝  
個人戦 関東大会7名出場  
【サッカー部】  
ベスト8 (昨年ベスト4)  
【バレーボール部】  
3回戦  
【ソフトテニス部】  
2回戦  
【山岳部】  
総合6位  
関東大会出場 (昨年3位)  
【軟式野球部】  
1回戦  
【卓球部】  
団体2回戦  
ダブルス ベスト32  
シングルス ベスト64 (3名)  
【バスケットボール部】  
ベスト16  
【バドミントン部】  
団体2回戦  
【テニス部】  
団体2回戦  
【空手道部】  
団体1回戦  
【水泳部】  
総合3位 関東大会5名出場  
【硬式野球部】  
夏季大会 3回戦 (ベスト16)

# 今年の館高同窓会(総親睦会)は11月11日(土)

## ～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で8回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合ってお出かけください。

好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事 昭和48年卒業生たち



↑昨年の総会で「驚ってご参加下さい」と呼びかける今年の代表幹事たち

日時：平成18年11月11日(土) 午後5時

会場：ベルジューネ館林 (TEL0276-72-2801)

◎参加券は総会幹事さん(下記)からお求めください。  
(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

※4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

### 平成18年 総会幹事

48年卒	47年卒	46年卒	45年卒	44年卒	43年卒	42年卒	41年卒	40年卒	39年卒	38年卒	37年卒	36年卒	35年卒	34年卒	33年卒	32年卒	31年卒	30年卒	29年卒
大沢 孝	山岸 雅彦	早川 元久	津久久清高	山田 孝光	野村 博久	渡藤 和昭	神田 静一	大橋 薫	今成 節男	白井 佳長	濱田 善雄	橋田 常尚	大塚 幸雄	山田 申	中島 大八	岡野 上	川生 宏	小川 潤	新井 耕一
原 康浩	井出 康弘	久保田雄也	津沢 昭彦	井野口隆平	藤原 道幸	藤岡 正	荻野仁一郎	伊藤 登三	小笠 裕雄	高橋 雅	和田 千明	鎌田 洋行	小林 克夫	塩田 勝	藤橋 博	石井 隆雄	栗原 保明	栗原 保明	荻野 次雄
古水 繁昭	金子 博	栗沢 信幸	中島 清	日比野三孝	早川 紀三	若田 徳憲	清水 理夫	伊藤 登三	初谷 元敏			宮内 敦夫	増山 豊臣	長谷川正博	手島 和雄			増山 芳弘	

問い合わせは 同窓会事務局まで

参加費 一人2,000円

記念品 校章入り参加記念タスキ

参加申込み 平成19年3月末日までに参加者名簿に参加費をそえて学校事務室まで

参加形態 同窓会参加は、タスキを製く願望も可。

文部メンバーでの参加、同級生による学年参加、グループ参加、個人参加も可。

日時 平成19年4月21日(土) 6時30分スタート

50の強学大会へのOBの参加事項

49年卒	48年卒	47年卒	46年卒	45年卒	44年卒	43年卒	42年卒	41年卒	40年卒	39年卒	38年卒	37年卒	36年卒	35年卒	34年卒	33年卒	32年卒	31年卒	30年卒	29年卒
渡沢 繁昭	船橋 英吉	渡沢 茂	尾崎 敏弘	小島 吉巳	藤原 基輔	江原 洋正	野村 達之	木沢 典	栗原 隆	野村 達之	木沢 典	栗原 隆	野村 達之	木沢 典	栗原 隆	野村 達之	木沢 典	栗原 隆	野村 達之	木沢 典
船橋 英吉	渡沢 茂	尾崎 敏弘	小島 吉巳	藤原 基輔	江原 洋正	野村 達之	木沢 典	栗原 隆	野村 達之	木沢 典	栗原 隆	野村 達之	木沢 典	栗原 隆	野村 達之	木沢 典	栗原 隆	野村 達之	木沢 典	栗原 隆

### 事務局より

- 総会幹事をこ推薦ください。上の総会幹事の欄で、空欄のある学年は補充する方をご推薦いただければ幸いです。よろしくお願いたします。
- 次号の同窓会報を送付希望の方は、会費として千円を、郵便振替でお送りください。
- 座番 00520121/2533
- 座名 群馬県立館林高等学校同窓会
- 事務局員は町田、寺崎、田中です。

### 編集後記

会報を早く見たい読みたい手にしたいと興味引かれるものにしたと、今号から二頁増ページし、OB会場者を2名から10名に増やし、懇話会場も4名にご協力いただいた。これにより会員諸兄にとって会報がより身近なものになると思う。これに伴い、OB会場欄に自分達の同級生が隔年に登場することになるので、広く皆さんに登場者の推薦をお願いしたい。情報提供を総会幹事や本部役員又は事務局にお願したい。皆様の協力をいただき、会報を一層充実させたい。

委員(関口、飯島、山田、前山、鈴木、藤原、藤岡、町田)

発行 群馬県立館林高等学校同窓会

〒374-0041 群馬県館林市富士前町1-1-1

TEL 0276-(41)123307

http://www.edu.c.pref.gunma.jp/gaku/kou/tatebayashi/